

No.3

・濁水処理の対策だけでなく、法面の浸食対策、盛土の安定対策や安定解析で十分な安全率が得られているといった記述を付け加えていただきたい。

評価書において下記のとおり記述を修正します。

準備書 P2-53 修正案

<現状記述>

2-2-8 土石の捨場又は採取場に関する事項

(1) 土捨場の場所及び量

土捨場の場所及び量は、第 2-2-13 表のとおりである。

また、土捨場の構造は第 2-2-17 図(1)～(6)のとおりである。

第一土捨場は、標高約 261m まで盛土を行い、所定の造成が完了した後、法面部は土砂流出防止を兼ねて、むしろ張り等による法面緑化対策を行う。

第二土捨場は、標高約 155m まで盛土を行い、第一土捨場と同様の対策を行う。

第三土捨場（土砂仮置場）は、冬期間に発生する土砂を仮置きし、春季となり雪融け後の道路開通後、第一、第二土捨場へ土砂を移動する。最終的には、標高約 140m まで盛土を行い、第一土捨場と同様の対策を行う。

<修正案>

2-2-8 土石の捨場又は採取場に関する事項

(1) 土捨場の場所及び量

土捨場の場所及び量は、第 2-2-13 表のとおりである。

また、土捨場の構造は第 2-2-17 図(1)～(6)のとおりである。

第一土捨場は、標高約 261m まで盛土を行い、所定の造成が完了した後、法面部は雨水による浸食対策としてむしろ張りをを行い土砂流出防止を図る。

第二土捨場は、標高約 155m まで盛土を行い、第一土捨場と同様の対策を行う。

第三土捨場（土砂仮置場）は、冬期間に発生する土砂を仮置きし、春季となり雪融け後の道路開通後、第一、第二土捨場へ土砂を移動する。最終的には、標高約 140m まで盛土を行い、第一土捨場と同様の対策を行う。

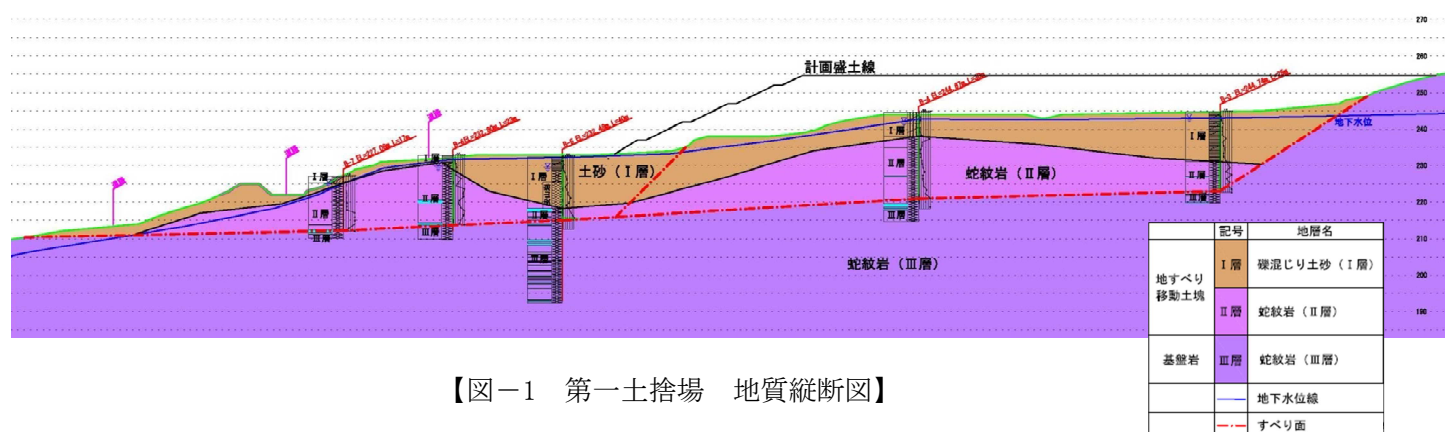
土捨場へ搬入する主な土は、岩塊（トンネル掘削ズリ）であるため、道路土工 盛土工指針に基づき、土捨場の盛土高さは最大約 20m、盛土の法面勾配は 1 : 1.8 を基本とし、盛土の安定性を確保している。なお盛土高さが 20m を超えると想定される第一土捨場は、盛土の安定解析を行い、安定性を確保している。

(参考)

第一土捨場は盛土の安定性を担保するために、ボーリング調査にて、地質、すべり線、物性値等の諸定数を把握した上で、安定解析を実施し、要求される安全率 F_s を確保しております。(図-1 参照)

常時 : $F_s = 3.54 > 1.20$ 地震時 : $F_s = 1.28 > 1.00$

なお第二土捨場についても、盛土高さは 20m 程度であるため、道路土工 盛土工指針に基づき盛土の安定性を確保していますが、第一土捨場と同様にボーリング調査を実施し、安定解析を実施します。



【図-1 第一土捨場 地質縦断図】